

赤十字だより ぎふ

vol.53

発行日
令和3年1月1日

編集・発行

日本赤十字社 岐阜県支部
Japanese Red Cross Society〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9
TEL (058)-272-3561
<http://www.gifu.jrc.or.jp/>

赤十字の活動は、皆様からの社資で支えられています。



岐阜県赤十字血液センター

CM動画はコチラ▶

インスタグラムはコチラ▶

若い力が
必要です

冬期は、風邪などの症状により体調を崩す方が多く、献血者が減少します。安全な血液製剤を安定的に確保するため献血へのご協力をお願いします。

「はたちの献血」
キャンペーン
スタート!

令和3年1月1日(金)～2月28日(日)までの2ヶ月間「はたちの献血」キャンペーンを実施します。

新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心に、広く国民各層に向けて献血の重要性を普及啓発するとともに、献血への協力を呼びかけます。

CONTENTS

■ 赤十字施設の活動を紹介します	2
■ みんなで予防、生活不活発病 —自分・家族・地域のために—	3
■ 青少年赤十字の活動を紹介します	4
■ 赤十字講習会のご案内(1月～3月分)	8
■ 義援金・救援金の受付状況	8

■ 各務原市立各務原特別支援学校で防災講習会を開催

11月11日(水)、各務原市立各務原特別支援学校で防災講習会を開催しました。

生徒44名が参加し、ハイゼックス袋を使った炊き出し体験や、災害や事故に遭遇した時に適切な行動をとれるように、バンダナによる止血方法などの応急処置法を学びました。

昼食には、自分たちで作った白飯にカレーをかけて食べました。

各務原市立各務原特別支援学校は、本年度、研究推進モニター校に指定され、活動の一環として防災講習会が開催されました。



ハイゼックス袋を使った白飯作り



炊き出しの様子



バンダナを使った応急処置講習の様子



■ 地域の小学校から励ましのお手紙をいただきました

依然として新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えない中、今年9月に、高山市内9つの小学校の児童227名からエッセンシャルワーカー(医療従事者等)へ励ましのメッセージをいただきました。虹をモチーフにしたカラフルでかわいらしい絵から、しっかりと学校や家で感染対策を継続しているよという内容まで、たくさんの応援をいただきました。

約1か月間正面玄関に掲示したところ、職員のみならず、受診に来られた患者さんや家族の皆さんにもご覧いただき、病院内に明るい笑顔が見られました。

児童の皆さん、ありがとうございました。職員一同、感謝申し上げます。

高山赤十字病院
〒506-8550 高山市天満町 3-11
☎0577-32-1111(代表)



■ 赤十字救護員として集団行動を学ぶ看護師研修を実施

11月10日(火)、勤続3年目を迎えた看護師11名を対象に赤十字救護員として災害時における集団での行動を学ぶ研修会を実施しました。

参加した看護師は、救護員の服装について基本に沿った着用ができているかを講師と一緒に確認し、細かな点などを見直しました。

また、災害現場などの混乱した状況の中で、救護員が迅速かつ的確に行動するためには、各自の判断で行動するのではなく、指揮者の命令の下で、全員が一致団結して行動する必要があることを、訓練を通して改めて認識しました。



ヘリポートで班行動



院長との集合写真

岐阜赤十字病院
〒502-8511 岐阜市岩倉町 3-36
☎058-231-2266(代表)



屋内で各個行動



訓練を振り返る様子

みんなで予防、生活不活発病

—自分・家族・地域のために—

生活不活発病とは、「動かない」(生活が不活発な)ことが原因で、全身の機能が低下し「動けなくなる」ことをいいます。いったん生活不活発病が起こると、生活行為が不自由になり、さらに生活不活発病が進むという「悪循環」に陥ってしまいます。新型コロナ感染防止のため、家の中で過ごす時間が増え、運動不足になりがち。寒い季節ではありますが、まずは「動く生活」に心がけましょう。

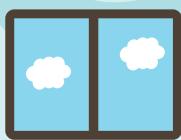
生活が不活発になることによって起こる足腰の衰えは、少し心がけて使うようにすれば衰えを緩やかにしたり、逆に機能を高めることができます。

バランスのとれた食事に気をつけながら、くらしの中に運動を取り入れることが大切です。

- ①最近、よく転んだりつまずくようになった。



- ②転ぶのが怖くて外出しなくなった。



- ③食欲が低下し、栄養が足りなくなった。



- ⑤ますます、食欲・筋力が低下し、生活がしづらくなった。



悪循環を
断ち切る

- ⑥ついには寝たきりに。



生活が不活発になった原因を明確にして、「悪循環」を断ちましょう。
出典：大分市福祉保健部長寿福祉課「こんにちは地域包括支援センターです」

座ってできる筋力トレーニング

片足上げ

大腿の筋力アップに有効

- 椅子に腰掛け、上体を真っ直ぐに保つ
- 片足を床と水平になるまでゆっくりと持ち上げ、約5秒間停止した後、ゆっくりと下ろす
- 片足ずつ5～10回反復する



足首の伸展・屈曲

足先が上がり転倒予防

- 椅子に腰掛け、上体を真っ直ぐに保つ
- 両足を椅子の高さまでゆっくりと持ち上げ、両足の指先を最大に下側にそらし、5秒程度停止した後、今度は上側にしっかり反らし、5秒間停止する
- この動作を5～10回反復する



膝の持ち上げ

腰～大腿の筋力アップに有効

- 椅子に腰掛け、上体を真っ直ぐに保つ
- 両膝をゆっくりと持ち上げ、約5秒間停止した後、ゆっくりと下ろす
- この動作を5～10回反復する
- きついときには、片足ずつ行うとよい



足踏み体操

- 椅子に腰掛け、上体を真っ直ぐに保つ
- 膝を曲げたまま片足を床から上げて下ろす
- 片足ずつ交互に5～10回反復する
- 慣れてきたら大腿を高く上げたり、早く行う



出典：財団法人長寿社会開発センター「指導版 あなたもできる骨と身体の健康法～高齢者の転倒・骨折を防ぐために～」

赤十字健康生活支援講習テキストより抜粋

テレビを見ながら…
ながら運動で無理せず
続けましょう

※支部主催赤十字講習会については、日本赤十字社岐阜県支部ホームページに掲載中 <http://www.gifu.jrc.or.jp/>

皆さんからいただいたご寄付の一部は、地域の子どもたちの学びのために活用されています。



このマークは、赤十字の青少年赤十字(JRC (Junior Red Cross))のマークです。青少年赤十字とは、「子どもたちが、世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、学校生活や普段の生活の中で、望ましい人格と精神を自ら形成すること」を目的とした事業で、「健康・安全」「奉仕(福祉)」「国際理解・親善」の3本柱を大切にしながら活動を行っています。

このJRCの目的に賛同し、加盟いただいている岐阜県の学校は、右表のとおりです。

岐阜県支部においては、こうした加盟校に対し、皆さまからいただいたご寄付を活用して、テントを寄贈したり研究助成等を行ったり、色々な支援をさせていただいております。

今回は、過去3年間の研究実践校の中から、実践の一部をご紹介させていただきます。

加盟校合計		649校
幼稚園等	45園	
小学校	公立	364校 100.0%
	私立	2校 100.0%
中学校	公立	175校 100.0%
	私立	4校 44.4%
義務教育学校		3校 100.0%
	公立	26校 38.8%
高等学校	私立	8校 40.0%
		22校 100.0%

◆ 防災教育推進校の実践

自然災害から青少年の健康と安全を守ったり、学校、地域、家庭における防災意識を高めたりすることで、人間のいのち健康や尊厳を守ることを目的として防災教育を実践してもらいました。

◆ 研究推進モニター校の実践

学校生活における青少年赤十字活動を通して、青少年赤十字の理解と促進を図ることを目的とした事業であり、青少年赤十字活動で大切にしている、「健康・安全」「奉仕(福祉)」「国際理解・親善」に関わった取組を実践してもらいました。

「防災教育」の実践

恵那市立武並小学校 R1 (防災教育推進校)

武並小学校では、小学校1年生～6年生までの6年間で、「自分の命は自分で守る」心と態度を育ててできるように、防災学習を児童の実態に応じて系統的に位置付け実践されました。

日本赤十字社が作成した「まもるいのち ひろめるばうさい」(左図)の中にある「地震災害」のDVDを視聴した後、ワークシートを使って「地震から身を守る方法」「緊急地震速報で身を守る方法」を学びました。



DVDを見て、大きな地震がくると建物が壊れたり、地面がゆがんだりして人が死んでしまうこともあるからとても怖いと思った。地震は突然やってくるので、緊急地震速報が流れたり揺れを感じたりしたら机の下にもぐって揺れがおさまるまで待つことが大切だと分かった。



DVDには、地震の様子や大きな地震が発生したらどうなるかが視覚的に示しており、児童が理解しやすかった。映像から恐怖を感じる児童がいることも予想できたため、視聴する前に怖かったら目を伏せてもよいことを伝えてから映像を見た。付録のワークシートに取り組むことで、学習した内容を理解できたか確かめることができた。

児童生徒の成長

- 6年間の系統性をふんだんに武並小学校防災スクールの実施によって、児童一人一人に「自分の命は自分で守る」心と態度が育ちました。
- 防災学習を修了する卒業時には、6年生全員が恵那市防災研究会から「武並子ども防災士」の認定を受けることができました。社会や地域の防災のために活躍できる児童が育ちました。

岐阜市立陽南中学校 H30 (防災教育推進校)

防災教育について、1年生生徒が専門機関(下表)との連携を行い、地域へ情報を発信する活動に取り組みました。

校外学習先(一例)	ねらい
岐阜総合医療センター	医療センターの仕組みや役割、隊員が到達するまでにできることは何かを教えて頂く。
日本赤十字社 岐阜県支部	中学生でもできる止血法、AEDの使い方を教えて頂く。
地域防災減災センター	専門家の方から、地震の際にどのような対応をすればよいか教えて頂く。
岐阜市役所都市防災政策課	防災倉庫の中身を確認、利用して、避難所を設営する方法を教えて頂く。
岐阜南消防署	地震の際の二次災害や、避難所の設営などについて、HUGを通して教えて頂く。
加納西小学校防災倉庫	加納西小学校の敷地内にある防災倉庫の中身を見せて頂き、説明して頂く。
岐阜市役所建築指導課	地震に強い建物とは何か、今からできる地震への備えとは何か教えて頂く。



▲ 学習した情報を整理するために、岐阜新聞社の方から情報整理の仕方を学び、グループで検討をしています。



▲ 日本赤十字社岐阜県支部にて、止血法やAEDの使用法を学びました。

児童生徒の成長

- 「まもるいのち ひろめるばうさい」のテキストを授業で活用することで、生徒は、防災の種類や対策について幅広く知識を得ただけでなく、自分の生活中で何ができるかに「気づき」、「考え」、「実行する」力が育ちました。
- 「知識」だけでなく、「学び方」を習得することを重点に置いて取り組むことで、防災教育だけでなく他の教科のまとめ等にも生かす力が付きました。

「健康・安全」の実践

山県市立美山小学校 H29 (研究推進モニター校)



「自分の命は自分で守る」「自分の健康は自分で創る」を合い言葉に、生命と健康に対する意識を高め、たくましい自分づくりを目指すため、児童会組織が中心となって、学校・家庭・校医が連携して活動に取り組みました。



●給食後の歯みがき

鏡を見ながらできる、「ハミガキパートナー」(学校歯科医より寄贈)を使い、給食後に全校児童が時間を計りながら行いました。

●保健委員会の取組

みがき残しがない歯みがきを目指し、外側、かみ合わせ、内側をそれぞれ右上の端から開始し、3周みがく「3周はみがき」を推奨しています。家庭への通信での発信と共に、児童保健委員会が歯の模型を使って各学級でみがき方の説明を行いました。

●定期的な保健指導

歯科保健指導を各学年3時間、学級活動の時間に位置付けています。ゲストティーチャーとして学校歯科医、市の歯科衛生士を招き、歯みがきの大切さや健康な歯肉をつくることについて学びました。

児童生徒の成長

- 児童は、「自分の命、自分の安全は自分で守る」「自分の健康は自分で創る」を合い言葉に、生命と健康に対する意識を高め、たくましい自分づくりができました。また、家庭と連携した取組をすることによって、保護者の意識が高まり、親子の会話や絆が生まれました。
- むし歯・歯肉炎保有児童が減少し、岐阜県学校歯科保健優良校審査において中規模校部門で県1位に選ばされました。

岐阜県立岐阜希望が丘特別支援学校 R1 (研究推進モニター校)

火災や地震等の災害発生時に命を守る行動を進んで行い、安全に避難するための防災教育に取り組みました。

命を守る訓練

地震発生時に足を負傷したことを想定し、担架を用いた避難訓練を実施しました。実際に高等部生徒が担架に乗り、屋外のスロープから運動場への避難を行いました。また、隣接する希望が丘こども医療福祉センターとの合同防災訓練を実施しました。12月には、震度5弱の地震を想定し、命を守る行動・各教室から体育館への避難を行い、さらに避難生活の長期化や保護者への引き継ぎを想定し、二次避難場所への移動の訓練も行いました。



▲ ストレッチャーを用いた避難訓練

児童生徒の成長

- これらの防災の取組を通して、児童生徒の中には、予告なしの訓練であっても命を守る行動を受け入れられるようになったり、教師の指示を待つのではなく、自分から命を守る行動を取ったりする姿が見られるようになりました。
- 特に、高等部の生徒は、「今まででは地震や火災があったら、誰かが助けに来てくれるまで待つという考えだったが、訓練や講話から、自分がどのように動いたらよいかを考えることができた。適切な避難の仕方を理解できた。」といった発言がありました。

「奉仕(福祉)」の実践

岐阜県立池田高等学校 H29,30 (研究推進モニター校)

赤十字の「人道・博愛」の精神に基づき、生徒一人一人が地域社会の平和と幸福に貢献できる人格と精神を形成するための教育活動を推進しました。

地域社会の環境保全のための啓発活動

家庭クラブを中心に、地元の池田町を流れる東川の積極的な環境保全活動を行いました。

5月に東川の水質検査と家庭排水の状況調査を実施し、生活環境を改善し東川の自然環境を保全するための方策を考え、チラシにして地元の池田町の全世帯に配付したり、水質環境を守るための標語を看板にして学校周辺に設置しました。



▲ 手作りの看板

地元の町や各種学校と連携した積極的なボランティア活動

池田町の池田っ子まつり、夏休み「寺子屋」学習会、親子ふれあいなかよし教室等の地元の池田町や神戸町で行われる行事に年間を通して、積極的にボランティアとして数多く参加し、その体験を通して、人道・博愛の精神を実践的に学ぶと共に、地域社会の平和と幸福に貢献できることの喜びを実感することができました。



▲ 地元の町や各種学校と連携したボランティア活動の様子

児童生徒の成長

- 生徒自らが地域とかかわっていく中で、周りの人々を笑顔にできる喜びを味わい、豊かな心を育むことができました。また、発表を通してプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付けることができました。
- 地元の方や各種学校の方々と交流することによって、将来は看護や児童福祉、高齢者、障がい者福祉に携わっていきたいなど、地元での活躍を希望する生徒が増えました。

八百津町立錦津小学校 R1 (研究推進モニター校)

人・地域とのふれあいを通して、思いやりや助け合いの心を育てる活動に取り組みました。

1 障がいのある方やボランティア活動をしていらっしゃる方と交流することによって、車いすで生活するときの困難さと介助するときに心がけることを学びました。その後、車いすバスケットの選手と一緒に車いすバスケットを体験して、その難しさや楽しさを感じました。また、選手のお話から、自分でできることを増やしていく前向きな考え方を学ぶことができました。



▲ 車いすバスケットの選手と交流

2 1年生児童は、年長児を招いて、小学校生活を紹介したり、自分たちで作ったおもちゃで遊んだりして交流しました。また、5年生児童は、保育園を訪問してペアで交流したり、全員で遊んだりしました。

2回目は、年長児が小学校に来て交流しました。この活動を通して、5年生は、最高学年への意識を高めることができました。



▲ 保育園児との交流

3 6年生の児童が、総合的な学習の時間において、講師の方から教えていただいた「和太鼓」を地域行事の夏祭りや公民館開館5周年記念式典で地域の方に披露しました。地域の行事は休日に行われるが、ほとんどの児童が参加し、地域との交流ができるにこゝに、誇りを感じています。地域の方、保育園児との交流活動によって、思いやりや助け合う行動が増え、思いやりをもった接し方や言葉のかけ方が生まれました。



▲ 地域に好評な和太鼓の演奏

児童生徒の成長

- 児童は、地域の方や保育園児との交流活動によって、「思いやり」や「助け合う行動」が増え、思いやりをもった接し方や言葉かけが生まれ、相手意識が芽生えたり、高まったりしました。
- 学校内だけでなく地域でいざつを交わしたり、地域の方々との会話が生まれたりするなど、温かい関係が生まれました。

「国際理解・親善」の実践

養老町立広幡小学校 H29 (研究推進モニター校)



平成28年度まではカンボジアの学校に文房具や古着などを寄付する活動を行いましたが、平成29年度はモンゴルの孤児院への寄付活動を行いました。これらの活動をとおして、国際理解を深め、国際親善の心を育てています。

人権週間の中で行われた「ひびきあい集会」では、モンゴル国の環境、文化、児童の様子について話を聞きました。モンゴルの子どもたちは、厳しい環境の中でも懸命に学んでいることを知りました。

集会の中では、モンゴルについての本やミニチュアの馬頭琴をいただいたり、本校児童が寄付活動を行った時の思いと、集まった物の報告を行ったりしました。全校の温かい気持ちと共に、モンゴルへ贈らせていただきました。

児童生徒の成長

- モンゴル国の実情を聞き、自分たちにできることはないかと考え、できる範囲でのお金や物を寄付することによって、児童には、物を大切に使おうとする気持ちや他者を思いやる心が育ちました。
- 地域の歴史や伝統文化に関する関心と理解を深め、自分たちの住む地域に誇りと愛着をもつことができるようになりました。



▲ 寄付活動で集めた物資をモンゴルへ贈る

白川村立白川郷学園 H30 (研究推進モニター校)

白川郷学園は、小学校から中学校の義務教育の9年間を一貫したカリキュラムで学習しています。白川村に誇りをもち、世界へ発信できるグローバル人材の育成を目指して取り組みました。

主な活動内容

① 6年生修学旅行「ジュニア観光大使」では、児童一人一人が白川村から「ジュニア観光大使」に任命され、修学旅行先の奈良と京都で白川村を英語でPRしました。東大寺や金閣寺などで出会った外国人観光客に「あなたは白川村を知っていますか?」といったアンケートを行って村の認知度を調べ、観光パンフレットを手渡しました。「知らない」と答えた外国の方々には、タブレットで村の映像などを示し、英語で村の紹介をしました。



▲ 観光大使として白川郷をPRする(金閣寺にて)

② 6~8年生「荻町コミュニケーション活動」

白川郷学園では、各務原市や羽島郡二町の「立志塾」プログラムに一部参加し、児童生徒同士の交流をとおして、英語力とコミュニケーションスキルの向上を目指しています。

主な内容は、荻町合掌集落にて両市町の中学生と共に、外国の方々を観光案内し、自分のふるさとをPRすることです。その際、子ども一人一人が進んでコミュニケーションを求める続ける姿勢が必要となるため、事前に英語の時間を使って英会話練習をして、実際に荻町合掌集落に出かけ、外国の方々との会話(道案内等)をしました。



▲ 外国の方々を道案内する生徒(荻町合掌集落)

児童生徒の成長

- 児童は交流体験の積み重ねにより、タブレットを使って説明する「プレゼンテーションスキル」が高まりました。特に、後期課程生徒は、誰もが授業や集会において、人前で堂々と発表できるようになりました。(後期課程:中1~中3)
- 外国人に「ふるさと白川郷」を説明するため、「郷土の歴史や文化を知ること」「そこに生きる人々の熱い思いを知ること」さらに「外国の国々を調べること」など、より積極的に学ぼうという意欲が高まりました。
- 来校者に対して明るい挨拶やていねいな対応等、お客様を迎える「おもてなし」の心で接することができるようになりました。

過去3年間に防災教育推進校、研究推進モニター校に応募して、指定された学校一覧

H.29 (研究推進モニター校) 岐阜市立長良小学校、岐阜市立且格小学校、山県市立美山小学校、養老町立広幡小学校、大野町立南小学校、美濃加茂市立山之上小学校、可児市立帷子小学校、飛騨市立河合小学校、下呂市立金山小学校、岐阜市立梅林中学校、岐阜市立長良中学校、羽島市立羽島中学校、各務原市立川島中学校、山県市立伊自良中学校、垂井町立不破中学校、多治見市立南ヶ丘中学校、瑞浪市立釜戸中学校、高山市立国府中学校、岐阜県立池田高等学校、岐阜県立恵那特別支援学校

H.30 (防災教育推進校) 美濃加茂市立伊深小学校、岐阜市立陽南中学校

(研究推進モニター校) 岐阜市立岩野田北小学校、各務原市立那加第三小学校、各務原市立八木山小学校、大垣市立青墓小学校、海津市立城山小学校、垂井町立東小学校、郡上市立川合小学校、郡上市立相生小学校、郡上市立牛道小学校、郡上市立那留小学校、美濃加茂市立山手小学校、可児市立兼山小学校、土岐市立土岐津小学校、岐阜市立長良中学校、岐阜市立青山中学校、山県市立伊自良中学校、中津川市立蛭川中学校、白川村立白川郷学園、岐阜県立池田高等学校、岐阜県立揖斐特別支援学校

R.1 (防災教育推進校) 恵那市立武並小学校、岐阜市立東長良中学校

(研究推進モニター校) 岐阜市立鶴小学校、羽島市立足近小学校、笠松町立笠松小学校、海津市立下多度小学校、関市立桜ヶ丘小学校、美濃市立美濃小学校、美濃市立藍見小学校、郡上市立大中小学校、八百津町立錦津小学校、恵那市立明智小学校、岐阜市立岩野田中学校、岐阜市立三輪中学校、各務原市立緑陽中学校、大垣市立星和中学校、揖斐川町立谷汲中学校、恵那市立恵那西中学校、恵那市立岩邑中学校、中津川市立蛭川中学校、高山西高等学校、岐阜県立岐阜希望ヶ丘特別支援学校

「伊勢茶プレゼントキャンペーン」開催中!

いつも献血にご協力いただき誠にありがとうございます。
この度、三重茶農業協同組合様のご厚意により、
「伊勢茶飲み比べセットティーバッグ」をいただきましたので
全献血者様を対象にプレゼントキャンペーンを開催しております。
寒い季節に、温かいお茶でほっこりするのはいかがでしょうか。
ぜひみなさまのお越しをお待ちしております。



開催期間 令和3年1月31日(日)まで

※数量限定のため、なくなり次第終了となります。

詳しくは、
ホームページで!

開催場所 岐阜県内全ての献血会場にて開催中

お問い合わせ 岐阜県赤十字血液センター

TEL:058-272-6911(月~金8:30~17:00)



岐阜県赤十字血液センター
〒500-8269 岐阜市茜部中島 2-10
☎ 058-272-6911(代表)

赤十字講習会のご案内【令和3年1月~3月版】

講習の種類	開催日	会場
救急法救急員養成講習	2月14日(日)・21日(日)	日本赤十字社岐阜県支部 2階 大会議室
健康生活支援講習支援員養成講習	2月15日(月)・16日(火)・22日(月)	岐阜赤十字病院 南館 2階 講堂
	2月17日(水)・18日(木)・25日(木)	高山赤十字介護老人保健施設はなさと 4階 会議室
災害時高齢者生活支援講習(短期)	1月20日(水)	日本赤十字社岐阜県支部 2階 中会議室
こことこころの架け橋講習(短期)	1月21日(木)	日本赤十字社岐阜県支部 2階 中会議室
防災ボランティア養成研修会	2月28日(日)	日本赤十字社岐阜県支部 2階 大会議室

※講習の一部を掲載しています。詳細及び申込方法は、日本赤十字岐阜県支部ホームページをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる可能性がございます。また、短期講習については、時間を短縮して行う場合がございます。
※詳しい内容については、事業推進課までお問い合わせください。

義援金・救援金の受付状況(令和2年11月30日現在)

義援金名	受付期間	受付金額(円)
東日本大震災義援金	平成23年 3月14日～令和3年 3月31日	2,095,288,156
平成28年熊本地震災害義援金	平成28年 4月15日～令和3年 3月31日	205,263,693
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	平成29年 7月 7日～令和3年 3月31日	16,771,497
平成30年7月豪雨災害義援金(広域)	平成30年 7月10日～令和3年 6月30日	22,430,106
令和元年台風第19号災害義援金	令和元年10月16日～令和3年 3月31日	53,903,460
令和2年7月豪雨災害義援金(広域)	令和2年 7月 7日～令和3年 3月31日	3,208,416
令和2年7月豪雨災害義援金(県内)※終了	令和2年 7月14日～令和3年 9月30日	64,231,343
中東人道危機救援金	平成27年 4月 1日～令和3年 3月31日	183,962
バングラデシュ南部避難民救援金	平成29年 9月22日～令和3年 3月31日	196,149

※義援金・救援金については、受付開始から令和2年11月30日入金分までの合計となっています。